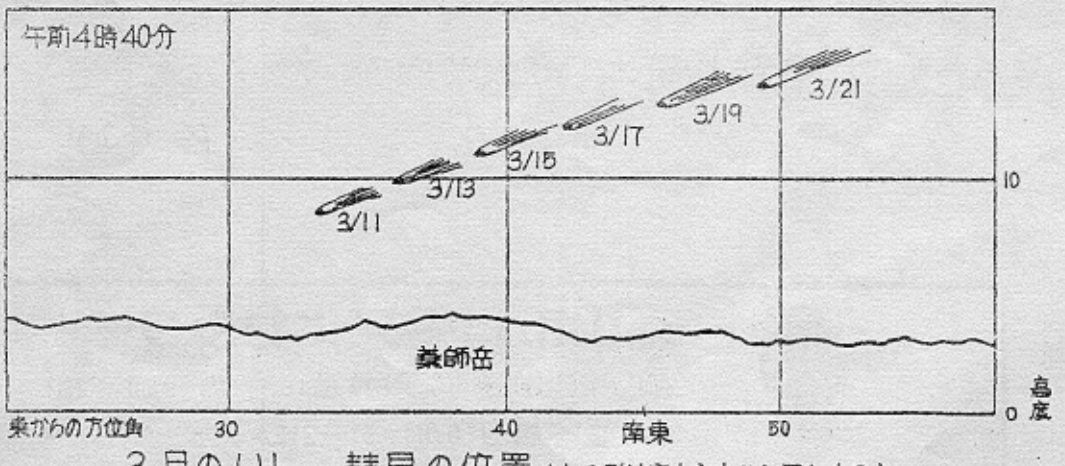
今月の話題　プラネタリウムの話題　NO.93

ハレー彗星はいつ見えるか

いよいよ、ハレー彗星が近づいてきました。　今回はいつハレー彗星を見たらよいかを考えてみましょう。　11月27日、1回目の地球接近の後、いったん地球からは遠ざかりますが、太陽にはどんどん近づいて、2月9日、太陽に最接近となり8800万Kmまで近づきます。　しかしこの前後、1月の後半から3月の上旬まではハレー彗星を地球から見ると、太陽のすぐそばにいて、非常に見にくくなります。　その後、太陽からは徐々に遠ざかっていきますが、太陽の強い光を受けて、ハレー彗星の核の氷がどんどん蒸発し、長い尾を引くようになります。　1910年に現れた時には太陽に最接近の約5週間後に一番尾が長くなり、1億4000万Kmにもなったそうです。
2回目の地球接近は、4月11日で6300万Kmまで接近します。

ハレー彗星を見るのに都合の良い時期は、この2回目の接近の前



3月のハレー彗星の位置（山の形は富山市内から見たもの）

後、3月の中旬から4月にかけてであり、明るさも4等～4.5等と予想されています。　ただ、ハレー彗星は月明りがあるとかなり見えにくくなりますから、満月の3月の26日前後つまり、3月23日から4月3日ぐらいまでは、あまりよく見えないと思われます。

4月11日の接近の頃が最も明るくなり、光度は4等級になるだろうと予想されています。　しかし、この頃のハレー彗星の位置は南の空に低くなり、日本から見える高さは6度程度（富山市内から見た立山連峰の約1.5倍の高さ）しかなりません。　さらに、彗星が地球に接近することによって、彗星が広がって見にくくなり、かえって条件としてはあまりよくありません。

結局、ハレー彗星を見る一番都合のいい日はこの彗星が太陽に最接近する日から5週間後、尾の実際の長さが最も長くなると予想される3月の中旬と考えられます。　この頃ハレー彗星は、夜明け1時間前に東南東から昇り、夜明け直前には高さ15度（富山市内から見た立山連峰の3倍ぐらいの高さ）に見えるはずです。しかし、ハレー彗星自体は淡い天体なので、街の中では、街明りにかき消されてほとんど見えません。　そこで、ハレー彗星を見るためには街明りの少ない所へ出かける必要があるでしょう。

（K. N.）

富山市科学文化センター
富山市西中野町3丁目1番19号（〒939）
電話 富山（0764）91－2123（代表）

昭和60年12月1日発行